

たまいたま 川柳



夜景

平成27年
11月号 (No.672)

日川協加盟

巻頭言

火山国といふこと

願法みつる

地球を覆う十数枚のプレートの内四枚のプレートの衝突部にある日本列島。小舟のような島国が、いずれはヒマラヤのように隆起するのか、アトランティスの様に埋没するのか。揺れ動く火山国の、遙かな未来は怖い。

「風林火山」とは武田の旗印で有名だが、孫子の兵法書では更に、「知り難きこと陰の如く、動くこと雷霆の如し」とある。信玄の偉大さは、存外この部分の運用にあつたのかも知れない。まさに情報と予知の世界だ。

中国大平原での戦争論の言葉は、まさに現今日本列島を予見していると見るのは、生意気だろうか。人道以前に天道があり。自然の道理に人間は抗し得ない。科学とカリ化学とかをいじくり廻し、葦のような人間の心を歪ませて、賢しらの知恵を金科玉条に、策を講じたところで、鯨一匹を意のままには御し得ない。

大自然の中で、アメーバのようなニンゲンが吐く川柳などは、閻魔の世界で勝手にほざく悪たれのようなものだ。とふて腐れてもみたくなる。何億年か後の探検家が、十七音字の句の遺物を発見したとき、どの様な感興を示すか。想像することが面白い。千の風になつて、無慮幾万の柳誌とやらの化石を、眺めてみたいものだ。

日日是好

願法みつる

騒いでる一人ひとりの主人公

勝負あり明日は新たなプラカード

政治家の本音を吐けぬ膨満度

仲直りしたよなしなようなお茶

しみじみと国を案じて酔いつぶれ

苦笑いしても地球は回ってる

警察が揉み手しながら訊いてくる

ゴミ一つ拾わぬ国の仁義礼

ロボットに何を託すか纏まらず